

大和文華館の生立 (その1)

おいたち

大和文華館館長 石澤正男

大和文華館は来年の秋、開館15周年を迎えようとしている比較的歴史の若い私立美術館であります。他の多くの私立美術館と較べてみますと、その設立の動機と美術館としての性格その他の点でかなり著しい相違があるといつてよろしいでしょう。そこでこれから「美のたより」を通じ、何回かにわたって、そういった点に触れながら大和文華館の生立を読者にお伝えしようと思ひます。

財団法人大和文華館の設立が大阪府知事松井春生氏により許可されたのは戦後早々の昭和21年5月6日のことで、当時の近鉄社長種田(おいた)虎雄氏を設立代表者とし、同氏の他に矢代幸雄、小原英一、金森乾次の3氏が理事として設立許可申請書に名をつらねています。あとの2人はどちらも当時の近鉄副社長でした。この申請書に添えられた設立趣意書はこれからの本文に関係がありますので、少し長いようですが原文のまま全文を引用しておきます。

設立趣意書

大阪近傍一圓ノ地區ガ日本文化發祥ノ地タルコト言フ俟タズ。此

ノ地域ノ交通ヲ担当スル近畿日本鐵道株式会社ハ夙ニ重要ナル文化的使命ヲ自覚シ之ガ達成ニ付聊カ盡力セルモ今ヤ終戦ト共ニ文化建國ノ國是明トナリ之ガ責務ノ重大ナル一層痛感スルニ至レリ。蓋シ日本美術及ビ文化ハ一面我國歴史ノ生ミタル文運ノ精華ニシテ之ヲ研鑽開發シテ新日本建設ノ精神的基礎タラシムル要アルト共ニ他面世界人類ノ至寶ニシテ之ヲ適當ニ世界ニ紹介・解説シ其ノ鑑賞ト讚美トヲ以テ東亞理想ノ融合ト親和トヲ圖ルハ新國是ニ即シテ我國ガ世界ニ對シテ負フべき文化的責務タルベシ。

近畿日本鐵道株式会社ハ此ノ新事態ニ鑑ミ多年抱懷セル計畫ヲ實施スルコトト志ヲ同クスル者ト相諮リ茲ニ財團法人大和文華館ヲ設立シ彼上ノ文化的使命ヲ達成センコトヲ期ス。

次に申請書に書かれている寄附行為のうち第2章 目的及び事業の全文も原文のまま引用しておきます。

第3條 本館ハ日本美術及ビ關係諸文化ニ関スル資料ヲ蒐集シ其ノ研究及ビ鑑賞ヲ奨励シ國民ノ教

養ト新文化ノ創成ニ資スルト共ニ世界ノ文運ニ寄與シ人類ノ平和ト親睦トニ貢獻スルヲ以テ目的トス
第4條 本館ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 1 大和文華館ノ設置
- 2 美術ヲ主トスル文化資料ノ蒐集、保存、陳列及ビ研究
- 3 文化遺跡、文化事情、民藝等ノ調査開發
- 4 展覧會、講演會、研究会等ノ開催
- 5 調査、研究ノ成果發表等ノ爲ニスル出版
- 6 附屬工房ノ設置ト新工藝ノ試作並ニ奨励
- 7 其ノ他理事会ニ於テ適當ト認メタル事業

それから設立当初の役員は下記の通りとなっています。括弧内は当時の肩書です。

- 理事長 種田 虎雄 (近鉄取締役社長)
専務理事 矢代 幸雄 (近鉄嘱託)
理事 小原 英一 (近鉄取締役副社長)
理事 金森 乾次 (近鉄取締役副社長)



故種田虎雄氏

- 監事 藤井 正 (近鉄専務取締役)
評議員 寺山 甚吉 (近鉄取締役会長)
評議員 大藏 公望 (近鉄取締役)

上記の人々は矢代先生を除けば皆さんが近鉄の重役ばかりですが、肩書としてはやや軽く見える大藏公望さんは日本の鉄道事業界の大物で、元貴族院議員、日本の大陸経営に重要な役割を演じた満鉄の理事を度々勤められ終戦時まで東亜交通公社総裁の地位にあり、矢代先生とも親しい間柄でした。

趣意書をよく読みますと大和文華館のような公共に奉仕する文化施設を創建しようとする意図は、なにも敗戦後急に叫ばれた文化国家建設という標語につられてのものではなく、種田さんの胸裏には戦前から早く醸成されていたことが推察されるのですが、次回にはそのことを明瞭に裏づける話をお伝えすることにします。

(49・8・11記)

季刊 美のたより No.29

昭和49年9月1日

発行 大和文華館